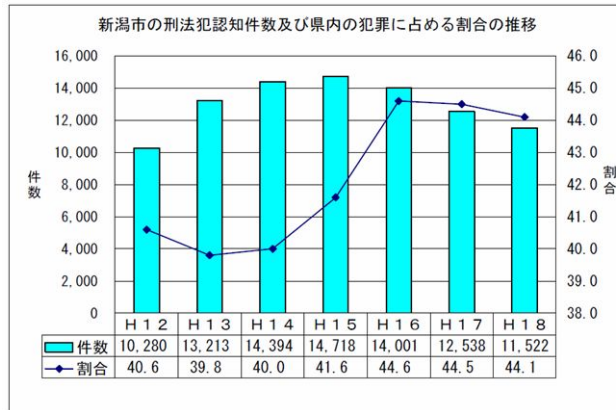


2-3-2 防犯に関する現状

(1) 犯罪の発生状況

新潟市における刑法犯認知件数は、平成15年に戦後最高の14,718件を記録してピークを迎え、その犯罪内容も凶悪化、多様化の傾向が続いていた。近年はようやく増加傾向に歯止めがかかったものの、平成18年中も刑法犯の認知件数が1.1万件を超え、平成12年と比べても未だに1割以上増えているほか、県内全体の44.1%を占めるなど、依然として高水準で推移している。



※ 折れ線グラフは、県内の刑法犯認知件数に対する本市の割合を示しています。
 ※ 平成12年から平成17年までの犯罪認知件数には、合併した各市町村の犯罪認知件数を含んでいます。

出典：平成20年度 新潟市犯罪のない安心・安全なまちづくり推進協議会 資料より

図 2-7 新潟市の犯罪発生状況

(2) 犯罪種別状況

新潟市の平成12年と平成18年の犯罪種別の刑法犯認知件数を比較すると、窃盗犯は平成12年が8,549件で平成18年が8,533件とほぼ横ばい状態となっている。また、刑法犯認知総数における窃盗犯の割合は、平成12年が約83%、平成18年が約74%に上っており、犯罪の約7～8割が窃盗犯となっている。

平成12年と平成18年の罪種別対比

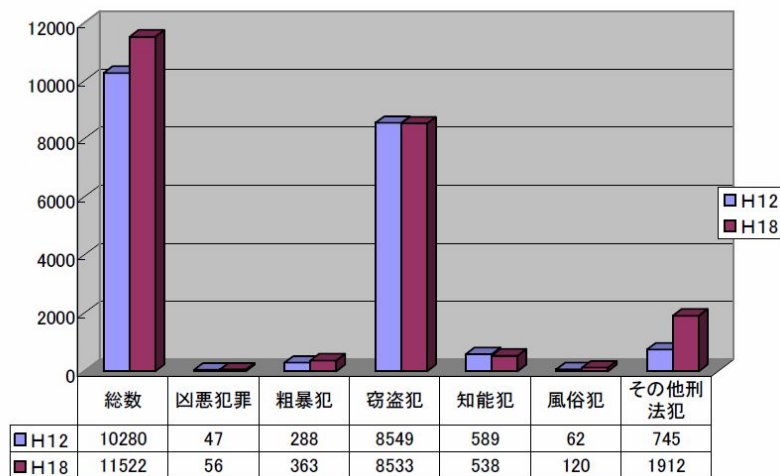


図 2-8 新潟市の犯罪種別状況

出典：平成20年度 新潟市犯罪のない安心・安全なまちづくり推進協議会 資料より

(3) 防犯活動の現状

新潟市における防災・防犯に関する活動として、以下のような取組みを進めている。

①セーフティ・ネットワークによる地域の安全・環境健全化対策

○活動主体

- ・新潟市東港セーフティ・ネットワーク（北区）
北区南浜地区および木崎地区の各自治会、地域コミュニティ協議会、警察署、市職員からなる組織

○経緯

- ・殺人事件や盗難事件が発生
- ・ゴミの不法投棄などの治安や生活環境に対する不安が住民に広がる。
- ・新潟市の「防犯活動モデル地域（セーフティゾーン）」に指定される。
- ・南浜地区および木崎地区のそれぞれの活動を北区として一体化

○概要

- ・「青パト作戦」（青色回転灯車による防犯パトロール）
青色回転灯車を使用し、小中学校の下校時にあわせ防犯パトロールを実施するとともに、ルートと状況を日誌に記録し、外国人の状況把握を行った。
- ・生活マナー、交通ルールの街宣広報

○活動の成果

- ・地域全体での取組みや活動を実施したため、犯罪に対する地域の監視性が向上し、犯罪発生件数の減少につながった。
- ・地域住民の防犯活動の参加機会が確保され、参加者が地域の状況を認識することができ、防犯意識の高揚につながった。
- ・外国人による夜間の騒音など周辺住民への迷惑行為に対する対策として、夜間パトロールの実施につながった。
- ・周辺企業の参加による国道7号新々バイパス豊栄インター周辺および鳥見緑地公園周辺のクリーン作戦を実施するなど、地域総動員の取組みにつながっている。



写真 団体設置総会



写真「青パト作戦」の様子



写真「クリーン作戦」の様子

②セーフティゾーン活動委員会による環境健全化対策

○活動主体

- ・新潟駅前地区セーフティゾーン活動委員会（新潟駅前地区）
商店街組合、業界団体、自治会、防犯団体等

○経緯

- ・強引な客引きやスカウトが後を絶たず、地域住民や通行人の不安が高まる
- ・地域全体で防犯活動に取り組む新たな団体の結成が必要

○概要

- ・ワークショップの実施
- ・「客引き」、「スカウト行為」、「ピンクビラ」を一掃する環境健全化パトロールの実施
- ・簡易防災機器整備（駅前商店街への防犯カメラの設置および設置表示ステッカー、のぼり旗の掲示）

○活動の成果

- ・新潟駅前に設置された民間交番「新潟駅前安心ステーション」が拠点となり、パトロールの実施、ピンクビラの除去、スカウト対策等が進展した。
- ・地区内の環境健全化への関心が向上した。
- ・パトロール実施期間中は、違反行為の防止が図られた。



写真 活動委員会設置会議



写真 新潟駅前安心ステーション



写真 防犯カメラと表示ステッカー



写真 環境健全化パトロール出発式